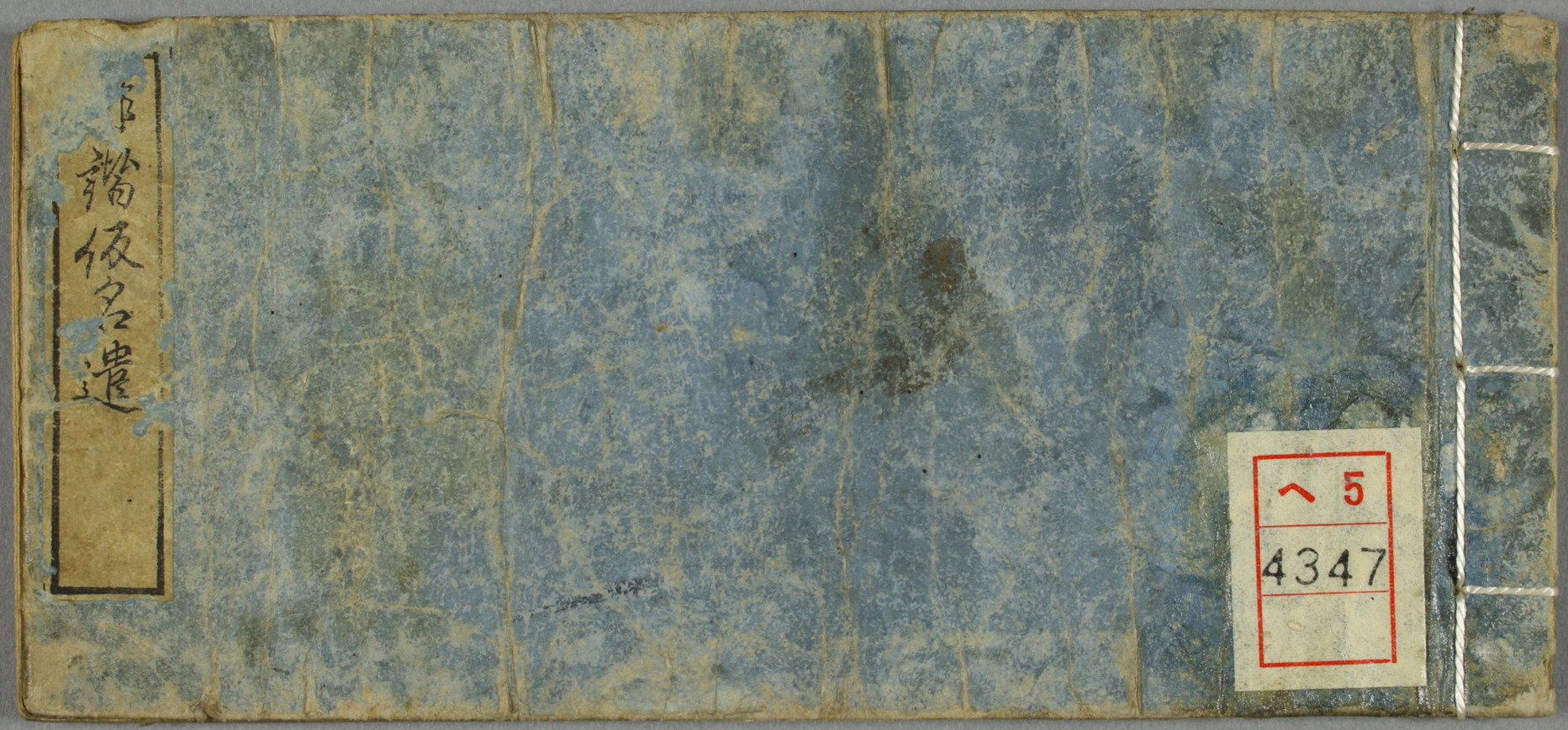
諸仮名遣
へ 5
4347

4347

俳諧仮名遣

いろはを和元名みて極重
城ちはわをへえ
むんう略形似て美るる
和あり其名字と假字
と云る国名言の家と三ッかぐ的
當るしめんとて假字
老城宮ら れる其内に古
ぐる今ゲ名の差別あり
又和歌の歩歌小定しれ
定格の外にかぶれ歌形
恰好ふうう色紙短冊ホの

書出すうらんとかたに書こめ
げうれこと海宝せしれ
例あるこ寺ぢし俳諧仮字考
を蕉風を云ふ箱の工夫して
建立する一法たて定格に
交一用法ものこをつひ
来る所式ともも徳しく
初入の標的を知しむる
こと尤もこと云
文政十三庚寅季秋
芝伊四子の孫士言井
蘭山

凡例

上古仮字遣の沙汰あ仮
定家々の仮字づひとは
京の今も行れ古虚実義
をずいろはの中ホヘの意
をれいるひあり引時如何同
書あるゆ名仮字考記こ
古今集時代と今ゞかとし
古事記日本紀ホ出こる和
歌の系集時代と古ゞ
とこ二種の内古ゞなハ正し
御国まびとまる人当ら

これをふよる

和歌は大官人の能通みて

字例のこと多く字音はれ

くと 俳諧は俗語卑語の

風雅我等べを和歌の能

言はさらに見びよりいく書と

例とそ用半仮

字音はと唐山とをれば

顔書ふ固べし 印度惹

曇ようは出る顔筆の七書

字の音を行の最上あれば

てて正とそ也 唐宣長

ぬ中の字書ゐづれ例見え

今は書さろふ小冊ゐる

必ず出べき新仮字老

の論を見ゆ名てに貴く

中俳諧は成べきを字を用

度おゐて玄名字の續る時

は仮字に書べきの新を挙る

元来懐紙は仮字を名の配

ふ法あれなと 彩末ふ出仮

下度ふ○と市せ一は古箱の

物好ようふ下のすゐうる成

嫌なくウ一ーフニ撃て出る

今俳諧の筆格に含ぬ
の部は二字三字を以て物の
名とせるに音訓とともに通じ
難き成事なれば王餘魚
と書てうれしと訓ずるに
通じ難き成ものは支那の
五倉湖の鱚を水へ流せしが
魚と化して元れひくと云こと
なれども含ぬと云故実
とい古より誤来りあるひは
謂ゆる誤を用るの類たゝ
バ女五禄と云は皆月分の公

事ゆえ女の字い訓ぶ大元
師法は皆月分十四日ぞ
大内に於て此師の字訓ぶ
定考の字をうぢゆると訓
ぶ類次第あどを見て知べし
音の訓は二字三字固有の字
ときゆゆる毎字下に和訓
をけく多義の訓あるものは
一と通るべき字にあ
ざれば元もいむ和のこと
なるも

目録

訓之部

い き し く　ひ ふ へ

を　中のを　下のを　お

え　中のえ　下のえ　ゑ

へ　中のへ　下のへ　え い

ゐ　ほ を と訓

つ 濁て訓　す 濁て訓

し 濁て訓　ち 濁て訓

これらハすミてハ訓るれど濁バ

紛らハしき處をもち出ス

會意　故実

音之部

いう　ゆう　いふ

そう　らう　らふ　たう

ほう　たふ　とう　かう

たふ　とう　わう

ぞう　きう　かう　とう

さふ　よう　やう　ゑう

えふ　そう　さう　さふ

のう　ろふ　まう　ゆう

へう　ひやう　てう　てふ

ちやう　ちよう　ねう

ねふ　りやう　りよう

△けう △けん △きゆう
△きやう △めう △こゆう
△せう △せん △しゆう
△たう △い △ね △し △ち

○ねん イ マタ キ
コうどを真音とし カウコウ
の形も亜音とし クワリヨ
チヨ ヤ の形を拗音とし
クワ キヤウ シヤウ の形も拗
音とし拗音なるものなる
反切ならば一字の直音と

なる クワン 反 カ リヨウ 反 ロ チヨウ 反 ト シヤウ 反

サのゞし

△懐紙真名仮字配の事
附云懐紙小二首懐紙二首
三首六首七首十首十六首
二十首三十首五十首百首六の
書法あり季目書上下の差
別あり沈つ思の書法なるそれ
それ文字づかひ料紙内くく
よきくく合を用ゆと云々集
に見えたれば俳諧もそこ乃
式にならひて歳旦もかくべし

別之部　いきしくさ

此イキシクサに通ふべきかく

いゝ假字たゝう　低しうをふゆ
かく一法之其成

翁の文字をつゝまれる
形ゝ初位感覚見らあ〇を中とし

青　あをい　あをき　あを　〇あをし　あをう

赤　あかい　あかき　あか　〇あかし　あかう

白　あろい　あろき　あを　〇あろし　あろう

黒　くろい　くろき　くを　〇くろし　くろう

闇　くらい　くらき　くを　〇くらし　くらう

甘　あまい　あまき　あま　〇あまし　あまう

辛　からい　からき　から　〇からし　からう

苦　ふがい　ふがき　ふが　〇ふがし　ふがう

酸　すい　すき　す　〇すし　すう

鹹　しほい　しほき　しを　〇しほし　しほう

濃　こい　こき　こ　〇こし　こう

厚　あつい　あつき　あを　〇あつし　あつう

薄　うすい　うすき　うす　〇うすし　うすう

暑　あつい　あつき　あを　〇あつし　あつう

寒　さむい　さむき　さむ　〇さむし　さむう

涼　すゞい　すゞき　すゞ　〇すゞし　すゞう

暖　ぬくい　ぬくき　ぬく　〇ぬくし　ぬくう

高　たかい　たかき　たか　〇たかし　たかう

低　ひくい　ひくき　ひく　〇ひくし　ひくう

長　ながい　ながき　なが　〇ながし　ながう

短 みじかい みじかき みじかく みじかう ○みじかし

廣 ひろい ひろき ひろく ひろう ○ひろし

狹 せまい せまき せまく せまう ○せまし

遲 おそい おそき おそく おそう ○おそし

速 はやい はやき はやく はやう ○はやし

早 はやい はやき はやく はやう ○はやし

明 あかい あかき あかく あかう ○あかし

新 あたらしい あたらしき あたらしく あたらしう ○あたらし

古 ふるい ふるき ふるく ふるう ○ふるし

深 ふかい ふかき ふかく ふかう ○ふかし

淺 あさい あさき あさく あさう ○あさし

遠 とおい とおき とおく とおう ○とおし

近 ちかい ちかき ちかく ちかう ○ちかし

強 つよい つよき つよく つよう ○つよし

弱 よわい よわき よわく よわう ○よわし

輕 かろい かろき かろく かろう ○かろし

重 おもい おもき おもく おもう ○おもし

安 やすい やすき やすく やすう ○やすし

易 やすい やすき やすく やすう ○やすし

惜 をしい をしき をしく をしう ○をしし

欲 ほしい ほしき ほしく ほしう ○ほしし

若 わかい わかき わかく わかう ○わかし

美 うつくしい うつくしき うつくしく うつくしう ○うつくし

憎 にくい にくき にくく にくう ○にくし

圓 まるい まるき まるく まるう ○まるし

九 まるい まるき まるく まるう ○まるし

無 ない なき なく なう ○なし

このよし鮮堅ろに賢うこの泰
何ぞ和もあり淮ト初ぞこれ
アイウエオの音ようイキシ
チニの連ぶに通へば
〈不動のい老おい鯛ろい
鰹こし螺をい題ど祖父ぢい
さし彩外へうこうぬと音にのむ
妻さに愛あい系けいのたぐひ
揚のいと
〈ひふへ下のひイと懐
ふヲうと懐ワと懐ゑと懐
いひいふへほひまふの彩

云いひ厭いに拂さひ
計さひ這さひ賑ぎひ
擔ふひ詔へひ訪らひ
吊ぶひ問ひ伴ともひ
誓ちひ違ちひ縫ぬひ
拭ぬひ笑ひ煩ひ
圍ひ通ひ飼かひ
粧よひ漂ひ添ひ
揃ひ使ひ遣ひ
傳ひ番ひ繕ひ
願ぬひ習ひ向むひ
思ひ逐ひ負ひ

覆 補 行

枕 喰 養

雇 傭 舞

迷 呪 惑

賄 震 揮

戀 乞 請

洗 逢 侍

誘 境 競

嫌 結 慕

醉 拾 囉

貰 吸 救

アイウエ　さひふへ　十相通ふ　又たふ通ふ

いおえんいたんおもたんいたん新

いミ嘲ふ　ひと但ー　剌ふい忠

相ハあい老ハあい老ハあい　青

よひ新ふひ初うひ齢よ

さひの新ハ不動の　ひと

紙　通用　にのヲともヲ云

男　女　伯

姑　夫　甥

長　惜　納

躍　苧　緒

尾　岡　荻

あゝくハ今ハ伯叔父母をおぢ

おゞこと称し奥のオ之古ゞおいけ

例ハ父ハ母の類之と分別して
ほのヲとハ今かな箴ハおぎなり
古ゟかハ此例ハ本文と分別して
ほのヲを用古と今とのよしあし
是らを考て了解すべし
斧をの 桶をけ 獺をそ
愛をし 遠をち 居をる
折をる 少女をとめ 蛇をろち
求をけら 犯をかす 教をしへ
媒鳥をとり
△例の中にある を
青あをし 節折よをり
△例の下にある を
魚うを いを 鰹かつを 十とを

竿棹さを
△ほ ヲ を と讀む
庵いほり 香かほり 尚なほ
直なほし 等閑なほざり 通とほる
遠とほし 滞とゞこほり 憤いきどほる
氷こほり 顔かほ 鹽しほ
潮汐うしほ 鳰にほ 勢いきほひ
大おほ 粧よそほひ
△お 奥のオと云てテニヲハに用ず
親おや 祖父おぢ 祖母おば
面おも 臣おみ 鬼おに
老おい 押おし 帯おび

沖 起 奥
置 生 己
翁 大人 及
指 織 負
奢 劣 威
溺 游 掟
後 贈送
重 熾 穏
夥 凡 恐
愚 音 乙
落 表 瘡瘢
大臣 大炊 莞

靈 蘿蔔 多
發 遲 卻
同 愕然 覺
命 弟 妻婦
婦 領 御
恩 思 驚
大 係 衰
下 朧 醜
赴 阿諛 狼
車前 澤瀉 黄精
食菜莢 玄參
浩鐘 於期菜

檻 しまの
榔 ろうじ
各 おのく
墓 はかさ
行 あこひ
賒 のうさ
几 まつき
江 柄 得 枝
榎 えのき
選 えび

虎子 ゆまり
佩 えの
綺 りの
喧響 とよめき
大御酒 おほみき
妖言 まがこと
懦 ゆな
踈 そう
麑 いる
粔籹 おこし
自 つから
弩 ゆみ
莒苴 めく
裡 くび
胞 える
襟 えり
聳 そびえ
蝦 えび

鵜 ぐり
榮螺子 さざえ
鵺 ぬえ
覺 おぼえ
中に在て
愈 いる
越 こえる
支 さえる
冷 ひえる
見 こえる
覺 おぼえ
笛 ふえ
楷 えこ
兒國 こくふ
蝦夷 えぞ
ゆ 通ふ
肥 こえる
超 こえる
煮 ゆる
冴 さえる
聞 きこえる
榮 さえ
疫 えき
消 きえる
抱 うる
燃 もえ
絶 さえ

ヤ井ユエヨの相通ずる一説ふ

え　二ツ小通へども沼と
引ゝ　ゆゑ　横　と　捕
とらふ　とらへ　はるりあさふ
抱ゝ　ふ　吟　拵　見せ　新
引て　も　例　ぶべし　金　吼
燃　ゑど　ハ　えり　田　ふ
ふ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ひ　ゞ　し

△ゑ

聲ゑ　末ず　梢ぞ
陶すゑ　その　尊ゑ　醉ゑび
彫ゑる　醫ゑ　豚ゑの
屠兒ゑ　笑ゑむ　回ゑ
醼ゑび　机つゑ　杖つゑ
女蔵薙ゑみくさ　穢ゑ

繪ゑ　會ゑ　餌ゑ
惠ゑ　衛ゑ　故ゆゑ

△へ　不動ふどう

上う　妙え　堪え
拷え　家いへ　八重やへ
副え　古いにへ　返へす
歸へる

同　不通ふつう

揃そろ　備そな　考かんが
答こた　構かまへ　譬たとへ
與あた　迎むかへ　教をしへ
調ととの　准なぞらへ　仕つかへ

誂（あつらへ）　携（たづさへ）　愁（うれ）
添（そへ）　鍛（きた）

△ハ　通用ワ列

謂（いはれ）　曰（いく）　云（いく）
俄（にわか）　替代（かはり）　終（をり）
巖（いはほ）　回（まる）　委（くた）
和（やはらぐ）　加（くはへ）　哀（あはれ）
障（さはり）　居（すわり）　兵（つはもの）
戯（たはれ）　劬（いたり）　則（すなわち）
囚（とらはれ）　齢（よはひ）　賑（にぎはひ）
岩（いは）　澤（さは）　汀（みぎは）
庭（にわ）　川（かは）　皮（かは）

際（きは）　革（かは）　燎（にはび）
潦（にはたづみ）　袷（あはせ）　桑（くは）
蛙（かへる）　柏（かは）　鶸（ひは）
鷄（にわとり）　交（まじは）　鰆（さはら）
剔（えぐる）　團扇（うちは）　鍬（くは）
繩（なは）　強（こはき）　細（こまか）
極（きはめ）　
蕣（さきくさ）　
[illegible]（[illegible]）　元来（もとより）　[illegible]（[illegible]）
[illegible]（[illegible]）

△ヌ

居（ゐ）　委（ゐ）　位（くらい）　威（おそれ）　韋（なめし）　渭（ゐど）　謂（いはれ）　葦（あし）

違圍（ゐ）　井居處
猪豕（ゐのこ）　亥（ゐ）　龍率（ゐ）
ゐ〻ゐ
藍（あい）　紅（くれない）　位（くらゐ）
烏芋（ゐもの）　豚（ゐのこ）　艘（ゐ）
蜎（ゐり）　禮（ゐやび）　田舍（ゐなか）
堰堤（ゐせき）　膝行（ゐざり）　臀（ゐさらひ）
率往（ゐそく）　珂乎豆（ゐちご　まめ）

△つ

水（ゐづ）　泉（いづ）　滴（ゐづく）
賤（ゐづ）　髮（ゐづ）　沈（ゐづむ）
削（ゐづる）　萬（よろづ）　何（いづれ）

尋（ゐぬ）　授（ゐづく）　閉（ゐづ）
撫（ゐづる）　先（まづ）　讓（ゆづる）
鼓（つづみ）　蛙（かはづ）　鯰（なまづ）
屑（ゐづ）　田鶴（たづ）

△ず

數（ゐず）　鈴（すず）　錫（すず）
疵（きず）　筈（ゐず）　涼（すず）
鵙（ゐず）　鼠（ゐずみ）　葛（ゐず）

つすゝ一ちゆ（ゐづ）　ゐ（ゐ）ハ百連や
ゐ〻ゐ　ゐとゝバ泉ヲいづゐと例
いずゐとゝ出水いづゐ　ゐづを
累ゼ　ゐとゝ　嵐をぬずゐと例
ゐづゐとハ出ゐ不審ハ　ゐてあり
ゐと云義也　名ゐとゐれバぬずゐ　ぬづ
ゐとゐ　ゐとゐ　ゐを　ゐぬ人の出ゐ
諸本及ゐ　ゐを　ゐハ百例の名

を明ふせぎれば
あやまり多し

ト

聖ひじり　咒まじ　鬮くじ
交まじり　始はじめ　彈たぐ
非時ひじ　刀自とじ　眺まなじり
蛆うじ　羊ひつじ　虹にじ
食じき　雉子きじ　次じ

ち

藤ふぢ　梶かぢ　楫かぢ
耻はぢ　筋すぢ　閉とぢ
緘とぢ　地ぢ　治ぢ
貳ぢ　匕さじ　臂ひぢ
肘ひぢ

泥ひぢ　鯵あぢ　氏うぢ
持病ぢびょう　味あぢ　紫陽花あぢさゐ

すむはゐるのさゐひうそ　一ちあや
まり多し　あとへ眺をすみどり
と別眼尻のこと　これをまなぢり
と思ひすそこれば　尻をちりと
よむべし　持糸のちまみると別
じさんとうあるみたいなぐ　紙ハすそこ
これば持ハしあぢ　千ゝ地形を
じぎやうと思ひすそこれば地ハ
しあゐ　千ゝ　紙ハ　ヂギヤウ
お尚ハ字とうかとお尚もう紙
ゲかものづうひ
紙一筆之

鶭　凡例ふことゐる

水鶏くひな　蝙蝠かうほり
鴛鴦をし　蜻蛉とんぼう
莎鷄ささなき　蚰蜒げじげじ

榮螺　蚯蚓みず
王餘魚　玉簪
女郎花　澤瀉
藜蘆　車前
紫陽花　酸漿
海雲　海髪
紅葉　赤小豆
鹿尾菜　素襖
烏帽子　暖簾
草鞋　草履
黄耆　透逸
△古実　凡例にこれ
ごとし

祝儀ヲ書キト書
法師ヲ也ヲ也ヲ也シト書
此外多シ
ホ又大内の公事に定
考ヲクウヂやうと例
おどは上下顛倒
又ハ字ヲ書く債ざる
ごき凡例ホ一ツ二ツ
云ごとし

音之部

△いう　△ゆう　△いふ

イウとユウハ同しをイフユフ
入事ハ例ハ例ハ

日用を逆さまにする所は日用に用ゐ難く
人のにくみ棄てる言葉なり
日用あれば用の所あるべき身も
あるべき文字は言葉なり日用を
使ふゆゑに用をなさざるべからざるなり
さらに用をなさざるべからざるなり
の字はさかさまなり。おもさ。おもさの別ち
一字の体なり。重さ。重さなる長の字は
ながし。ながさ。うけ。をさ。さめ。ふ
訓を体なり。の日葉ふ
なぶれと物のながさをなるゆ
人のをさつさの体を体さつる
ねをは葉も日本こそいで上方
と中国西国と中国実京の辞
と西へ〜ぶれば日葉ものぶ類語
せりち葉ふも揚子方言は佐
州の言辞文字をあるせ〜もの
みて日本ふも佐州ことばの先
ひを記せ〜
ものあり

囮をとり友とも犹のごと
鵡をとり尤ともも疣いぼ

右うぎ 佑なすく 祐さいの
猶なほ 憂うれ 優まさる
嘔おげく 誘さそふ 游あそぶ
侑すむる 有あり 又また
悠おだし 訧つみ 幽うすら
槱なきぶ 莠ふぐさ 油あぶら
柚ゆず 由よし 揉もむ
蕕ぐく 攸ところ 攸ゆうん 貴ふ
憂ばいうこちたき 陋ろなるべし 低ひく
勇の字ゆうと 憂ものきと 憂ものきと 実ハ
イヨウと略して 難のごとくよう
と憂方近し〜

邑むら　揖あづる　挹くむ
裒つむ　浥うるをす　煜ある
熠ほのか　瞬ひらめく　あどけなふ
むまるに　遼とをし

△ろう

樓たかどの　籠かご　朧おぼろ
螻けら　髏くれぐび　僂せむし
婁やつし　慺つむ　弄もてあそぶ
聾みぐく　瓏たまはすき

△らう

老おい　浪なみ　郎おとこ
勞いたる　廊とのゐ　根いなき

△らん

潦みづたまり　澇ひでり

△らく

鑞おもり　臘あすす　蠟ろう

△たう

方うつ　房ぬや　防ふせぐ
坊ちまた　傍ちかく　訪とふ
妨さまたげ　妄みだり　抱いだく
放ほうい　望のぞむ　庖ひと
褒ほめる　庖ちやや　寶たから
包つつむ　胞はらむ　飽あく
皰きび　炮あぶる　報むくる
保たもつ　怠ものうる

△ほう 清濁共

雩きり 鳳おおとり 懵くらし

濛くらし 蓬よもぎ 奉うける

豐とよ 帽くろのぼう 匹ひとぶ

峯ほう 蓬あん 逢あう

朦くらし 朦くらし 葑ぶう

縫ぬう 鄯あとこ 蠻こもむし

牟をす 剖さく 趙ちる

謀たくらむ 罕あと 矛ほこ

朋とも 崩くずる 封ふむ

捧さうぐ

△ほう

△ほう 清濁共

法のり 乏とも

△ほう 清濁共

東ひがし 同おなじ 桐きり

蝀ゆむ 棟むね 凍こおり

菫たぶす 洞ほら 冬ふゆ

疼いたむ 形あらし 登のぼる

滕ゆとう 能よく 謄うつす

藤ふじ 燈ともしび 童わらべ

豆まめ 斗ます 桶をけ

動うごく 兜ぶと 殿さい

透すく 餖たくあん 逗とまる

△ほう 清濁共

唐 稻 堂
當 黨 棠
道 湯 桃
刀 嶋 淖
撓 閙 趠
濤 盜 猱
導 禱 倒
討 到 悼
逃 萄 幬
叨 滔 忉
曩 蕩 蹋
糖 鐺 囊

瑞
〈たふ〉
沓 答 納
踏 塔 浮圖 澄
齠 騰 搭
袴 搦 搦
〈ちう〉
王 往 枉
旺 汪 尪
泓
〈ちう〉
奥 懊 鏖

坱 ちり 鶯 うぐひす 盎 おどぎ
醯 おろさみ 夭 ようぶ 拗 おうる
隩 くま 燠 あつ 鴦 ぢり
甍 ぐしの 澳 ふか

△あくい

姶 うる 匼 ふろ 咽 きぐ
鴨 かも 押 おす 閘 げん
凹 くぼ 壓 むる

△ちう

羽 はね 雄 たけ 嫗 うば
甕 ぐい

△くう

皇 すべら 隍 ほり 廣 ひろし
懸 かける 擴 ひろ 纊 ぬき
黄 きいろ 慌 あわ 惶 おそる
煌 きらめ 徨 さまよ 荒 あら
曠 ひろ 轟 とど 宏 ひろし
姻 とぶ 鑛 あらがね 礦 あら
横 よこ 光 ひかる 璜 ぎょく

△かう 清濁共

香 かおり 孝 こうし 行 ぎょう
高 たかし 考 かんがえる 膏 あぶら
庚 かのえ 交 まじる 岡 おか
剛 つよし 毫 ふで 幸 さいわい

号 効 好
耕 更 糕
降 肴 窖
郊 校 哮
鮫 斅 恔
巧 狡 敲
烋 較 膠
爻 淆 殺
皐 誥 告
傲 藁 縞
暠 耗 槁
稿 吮 耿

羮 倖 珩
賚 衡 亨
硜 江 関
巷 講

〈こう〉

公 紅 貢
孔 工 虹
口 后 厚
後 功 悾
洪 溝 倥
釭 肱 亘
緪 弘 侯

迫 扣 叩

詬 糇 喉

候 寇

ろふ

閤 闔 狹

蛤 鴿 盍

合 甲 跲

袷 匈 恰

夾

こふ

業 劫 怯

よふ

用 容 庸

蛹 壅 擁

癰 踊 傭

鎔 蓉 饔

饔 涌 雍

鷹 譽 膺

蠅 勇

ようう

陽 養 羊

揉 恙 佯

楊 揚 殃

颺

△ようう

祆 鷄 腰

要 遙 謠

妖 耀 曜

要 夭 喪

揺 鯒 幺

幼

△ようふ

麗 麗 燁

瞱 泡 厭

葉

△ようう 清濁とも

僧 宗 増

贈 送 叢

蔥 息 從

宋 國名 鬆 淙

窻 憎 罾

層 曾 叟

蔟 奏 走

漱 湊 輳

△さうう 清濁とも

爪 抓 抄

笊 梢 消

操 漕 早

繰 搔 慥
瘙 躁 造
掃 燥 藏
霜 顙 莊
滄 倉 葬
裝 愴 喪
瘡 爽 剱
蒼 爭 壯
艸 双 藻

△さふ

雑 帀 颯
霎 插 啑

歃 扱 箑
笈 妾

△そふ

字音ふくるゝ
刑ふ あり

△のう

呉音之
能 農 濃
膿

△あふ

呉音之
納 衲 つゞる
法音ばふ呉音ハのふ ともゝ
書くべきを

△まう

孟 猛 蜢

盲めしい 亡ろぶ 妄ぼう
毛け
〈もう〉
蒙もう 夢ゆめ 懵らし
朦もし
〈ぼう〉 清濁とも
表おもて 廟やう 飆つむじ
眇すがめ 殍うゑじに 貓ねこ
僄うすし 裱えり 剽ひやす
瓢ひさご 摽かつる 苗なへ
俵たはら 標こずゑ 漂ただよふ
渺はるか 藐ちいさし 森もり

慓さう 飄ひるがへる 藻うきくさ
熛ひびき
〈ひょう〉 清濁とも
兵つはもの 病やまひ 評ひやう
拍うち 兵病評ともに
拍ハ人ノ手ヲ拍ツ事ナリ
〈てう〉 清濁とも
鳥とり 朝あさ 調ととのへ
蔦つた 尿ゆばり 裹つつむ
挑ひらぐ 召めす 蜩ひぐらし
釣つる 誂あつらへる 吊つる
旐ぜう 跳をどる 眺ながむ

兆きざす 超こえる 肇ちぎめ
掉うごく 條えだ 苕ちがぎさ
迢はるか

〈てふ〉 清濁ともに

蝶ちょう 堞ひめがき 諜ぬすむ
貼はる 捻ひねる 蹀あと
鑷けぬき 艓こぶね 牒ふみ
疊たたむ 帖ふだ

〈ちょう〉 清濁ともに

長ながし 悵うれふ 場つちば
仗つえ 脹ふくる 孃ムスメ
娘むすめ 杖つえ 袒あらら

暢のぶる 丈たけ 丁ちょう
定さだむ 諚あせ 聽きく
廳やくしょ

〈ちょう〉

冢つか 塚つか 寵しのむ
重おもし 懲こらす 癥ちょうの
澄すむ

〈りょう〉

撩はるき 廖まがる 料はかる
療やす 燎ひのび 鐐はがね
了さとる 嘹ほがらか 遼はるか
寥しづか 寥しづか 聊いとう

△れん

鬣 獵 躐

△りやう

梁 廳 涼 掠 亮 量 良 粮 領 靈 兩

△りよう

龍 菱 陵 凌 鯪 綾 橋 嶠 竅

△けう 清濁とも

梟 翹 蹻 驍 蹺 僑 激 澆 喬 叫 仰

△けふ 清濁とも

脇 胠 跨 拮 脩 業 袈 劫 怯 箧 莢 挾 愜 頰 協 叶

△きやう 清濁とも

郷 狂 香
鏡 境 向
行 兄 教
形 敬 経
輕 強 京

△きやう 清濁共

恐 興 凝
節 恭 拱
蚕 供 匂
胸 洶 兇
襲 恐 跫

△めう

妙 比外日本ニ義荷ヲめうと別ド或ハめうがと
のべて

△めう 呉音

明 名 冥

△せう

霄 沼 潇
宵 笑 召
嘯 誚 招
繞 少 小
遶 鞘 照
焼 消 梢
昭 蕘 肖

蕉芭

蕭よもき 橈たち
銷けす 鐃ゆさう 翁ちまた
悄うれへ 憔こがる 憔でん
逍たつる 弨ゆみ

昊あきの清酒とも

正ただし 姓うぢ 性しやう
生うまる 粧よそほ 精くはし
賞めでる 障さはる 象かたち
掌たなごころ 牆かき 匠たくみ
將ひきゐる 想おもふ 唱となへ
章あや 傷いたむ 飼かひ
漿こんず 讓ゆづる 釀かもす

襄のぐる 醤ひしほ 攘ぬすむ
嘗なむる 倡いざなふ 尚ひさし
蹌たちる 樟くすのき 裳もすそ
箱はこ 槍やり 祥さいはひ
彰あらはす 昌さかん 猖さかぐ
相すけ 常つね 商あきなひ
淨きよし 聲こゑ 情なさけ
城しろ 星ほし 成なる
聖ひじり 請こふ 床ゆか

清濁とも

稱となへ 從したがふ 種たね
承うけたまはる 丞すけ 蒸むす

剰 甑 證
認 陞 升
繒 繩 頌
蚣 訟 踵
誦 松 種
聳 鉛 鍾
鐘 躅 衝
穴 舂 苔
乗

〈せ〉

妾 接 睫
讐 懾 畝

禰 楫 變
浹 捷

〈い〉

家者の下ふ家い之
拜 禮 例 貞
亭 庭 體 臺
代 待 迫 退
對 第 大 敬
經 景 契 傾
清 西 精 誠
齊 齋 妻 再
菜 永 榮 明

迷め 命め 名め 銘め
冥め 平へ 坪へ 閉へ
開へ 蓋へ 階へ 害へ
梅へ 倍へ 陪へ 雷へ
戒へ 詠へ 愛へ 來へ

ゐ

騅ゐ 衰ゐ 吹ゐ 惴ゐ
背ゐ 捶ゐ 揣ゐ 猝ゐ
娶ゐ 心ゐ 睡ゐ 髓ゐ
垂ゐ 隨ゐ 菫ゐ 睦ゐ
鋭ゐ 羸ゐ 累ゐ 痿ゐ
蘂ゐ 秤ゐ 錐ゐ 澤ゐ

醉ゐ 推ゐ 趡ゐ 出ゐ
翠ゐ 綏ゐ 水ゐ 帥ゐ
遼ゐ 誰ゐ 遂ゐ 壘ゐ
類ゐ 蕤ゐ 蕊ゐ

いゐ

一字の音なるものあり
猗ゐ 倚ゐ 縊ゐ
移ゐ 酏ゐ 易ゐ
伊ゐ 懿ゐ 姨ゐ
遺ゐ 惟ゐ 唯ゐ
醫ゐ 譆ゐ 意ゐ
異ゐ 矣ゐ 以ゐ
飴ゐ 夷ゐ 皆ゐ 青ゐ

逶 委 餧
爲 蔿 帷
洧 位 尉
威 魂 韙
胃 韋 偉
圍 違 彙
（けがの音なり）

し

字寺時什汁甚人仁
自次序如汝叙彝入
食儒（けがとよりなるわり）

ち

治持住沈塵碪女陣
陳除（けがちうりなるう）
〈假字者の訳おく用あるは
印音院陰員因隱韻
ゐんと奥のゐと違えらのゐ
の用あくまも臣俗誤て字者
小雪く猶を宦令の見別も
ゐくで書未るあるべし
訓の仮名八韻書小因べし
統して徘徊八俗淡平語ム
也天大小妨ム見八俗字俗
ゐるも利うべし唯宮小

依て假字ふ宮ゐりあれだ
梗概を徳のく
△懐紙式名がみの配の事
りろこしの詩に六義あり
我朝和歌ふ六義ゆる
ことそ古今集の序ふ出
さり此儀ハ和歌も連歌
も俳諧も程ふ方て変う
るまゝ〳〵されども和歌を
連歌出連歌より俳諧
出ると思ふハ違なる
事〳〵和歌ハ教諭れ

とて神代より有日本
武尊新治筑波の汗詠
ふ近侍句を謝ふ歌
連歌の格言とすると
あれど和歌の上下と
二人ゐく詠ぐるも
あ〳〵ば似て美なる分ふ
一様のものゝ俳諧ハ大に
年代違ぐて形ゐる
ものゝて連歌の法式を
省略ぜ〳〵ものるれば連歌
より出ぐるに和漢形〳〵

本歌の懐紙と出ル

詠俳諧和春和歌　　若栄

なさあるる春のくれふもはやこの花いのとけ紀美ル

保敵流

下の句三字義葉書に
もる法あり俳諧元来
歌詞紙嫌ひ和歌ハ
だを用ぶれども幾句と
発句三と二ツ物とく懐
紙へ書ル山言をうり用

うるうる云連歌彩式目ハ
意永の比二条禅尚良
基公あるいるへり此
時代連歌

江州石山寺ハ云
月ハ山風そ志ぶれふるの海　良基公
さ浪さも紀歌とそ聞れ　園河
松一本あり奴蔵茶ホあり
彼連天　侍公
山ハ紀とてにさふく
うるもまりありしと見ル

慶長の比

清水金閣殿法会

花の野道をけ法師ん　兼春公

ゆく春の影

さるい霞ふひれぬる柳　貞徳

たつとしふ雅楽の雅ふ鳴

須天元　玄旨

和歌所より長歌沙汰あり

巻かど玄者は書くつぐ

くる時うんなをいくゝ

これらは定法もあく見

たゝひゆ名は俗なりでい

玄得一ゞ　今ふ

ゆるゆるく器用の物は

顔家留てあると字

ゝく留る法なり和又

俳諧の文字ふるみ出にする

ゝ戒厳ひ祭らけ玄戒

用る物ふなりしい物延享

宝暦の比は変れり執筆

ふ書にも戒慢て脚来

の和字もる死を流く義

所を字戒塙る物ゝこと

あり撥夫藍爽竹槍
呼通の茅花流し和歌と
遠く俳諧に雲おとろう
節季俳婆皆のことゝ云
出れば千緒万端を俗俳
年活社会のうんぞ國家書
を妨げ徒らに俳席に
方て一座の宗匠発句の
教を授け給へ

山崎久作校

弘化四年丁未春二月刻成

江戸俄町茅町弐丁目
書林　須原屋伊八